

ファイナル風

(現場)からの

宮田守男

今日11月22日は、い(11)ふうふ(22)の語呂合わせから「いい夫婦の日」。だが、夫婦を取り巻くのは高齢社会の到来で、現在日本人の平均寿命は男

性81・09歳・女性87・09歳、対して健康上の問題で日常生活に制限のない期間とされる健康寿命の平均は男性72・68歳・女性75・38歳だ。大雑把に考えれば、その差10年近くが介護の必要な期間と考えると、健康寿命の年齢に達した人はいつ介護が求められる状態になっても不思議ではないと考えるべき歳になったと自覚すべきなのだろう。だからこそ健康寿命に達する期間までに社会とのつながりを大切にしながら生活営むことを強くお勧めしたい。

11月初旬に大北地域の市町村を退職したメンバーが企画した「元気回復親善旅行・石川県羽咋市宇宙科学博物館コスモアイル羽咋」で北陸を旅する。貸し切りバスの運行には車庫からの発着時間の制約もあったが能登地震

の市町村を退職したメンバーが企画した「元気回復親善旅行・石川県羽咋市宇宙科学博物館コスモアイル羽咋」で北陸を旅する。貸し切りバスの運行には車庫からの発着時間の制約もあったが能登地震

スーパー公務員が成し遂げた事実を知ることだ

で大きな被害をした北陸地方の復興の一助になればとの企画だ。小谷村で参加者が全員乗車すると、松川村が北限とされる落葉低木のオオヤマレンゲの花の種を参加された松川村のメンバーからプレゼ

ントされる。和名は奈良県の大峰山に自生し、ハスの花(蓮華)に似た花を咲かせることに由来する「大山蓮華」で、有明山の中腹での生育が確認されていると説明し「ぜひ自宅の敷地に秋に播種し



屋外にはアメリカが打ち上げた本物のレッドストーンロケットがそびえ立つ

訪れた宇宙科学博物館「コスモアイル羽咋」は多くの本物を鑑賞できて堪能できた。

人口2万人弱の小さな街に本物の宇宙船を持ってきたのは、1984年に市役所臨時職員に雇用された高野誠鮮さんだと知ることができた。市の職員として担当していた公民館員に雇用された高野誠鮮さんだと知ることができた。市の職員として担当していた公民館員に雇用された高野誠鮮さんだと知ることができた。

の「古文書講座」で地元で伝わるUFO伝承を知り、町おこしに取り組んだことだ。予算なしから、建物30億円、用地買収や取り付け費用で20億円残りの2億円でロケットや宇宙船などの展示物を用意など合計52億円を全て国の予算で完成させたことだ。一人の職員が地域への熱意で成し遂げた現場は、展示物の内容を上回る感動だった。取り組んだ内容や展示物を知るために、ぜひ現地を訪れてはどうだろうか。

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)